

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

(令和2年度)

愛知産業大学三河高等学校
通信制課程 単位制

目 次

I	学校概要	1
II	教育目標	
	(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神	2
	(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育目標	2
	(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育指導方針	2
III	重点目標の達成及び改善方策	
	(1) 学習指導	3
	(2) 生活指導	4
	(3) 進路指導	5
	(4) 生徒相談	5
	(5) 生徒募集	6
	(6) 総 務	7
	(7) 校 務	8
	(8) 事 務	8
IV	本年度の具体的な取り組み	9
V	来年度の具体的な取り組み予定	9
VI	重点目標の達成に対する考察	10
VII	生徒アンケート結果の総合考察	10
VIII	保護者アンケート結果の総合考察	10
IX	今後の方向性	11
	生徒アンケート 集計結果	
	保護者アンケート 集計結果	

I 学校の概要

(1) 学校名

愛知産業大学三河高等学校

(2) 課程

通信制課程

(3) 所在地

〒444-3523

愛知県岡崎市藤川町西川向1-20

TEL: 0564-48-5230 FAX: 0564-48-8775

ホームページ: <http://asu-mikawa-tani.jp>

(4) 沿革

昭和58年 三河高等学校の創立が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の10に置く。

昭和58年 三河高等学校を開設。全日制課程の普通科と電気科を置く。

昭和60年 三河高等学校の全日制課程に情報処理科と通信制課程を設置する。

平成3年 愛知産業大学の設置が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の5に置く。

平成7年 三河高等学校の校名を愛知産業大学三河高等学校に改称する。

平成10年 愛知産業大学三河高等学校に単位制（普通科）を設置する。

平成16年 愛知産業大学三河高等学校の単位制新校舎が完成。

(5) 通信制課程の構成

学年制の生徒が在籍する技能連携校（専門学校高等課程）と本校独自の単位制で構成されている。

学年制には、普通科・商業科があり技能連携を結ぶことによって、専門学校の単位を本校の単位として認定、年回3回のスクーリングを本校で行い高等学校卒業資格を与えることができる。

本校単位制普通科には、2つのコース（午前コース・午後コース）を設けている。また、午後コースは少人数制授業（10人前後）を行っている。通学型通信制で大学生のように自分で選んだ授業を受講し、3年間で74単位取得することで通信制の卒業資格を得ることができる。

(6) 技能連携校

名古屋情報専門学校 高等課程

あいちビジネス専門学校 高等課程

西尾高等家政専門学校 高等課程

名古屋調理師専門学校

専修学校東洋調理技術学院
 豊橋ファッション・ビジネス専門学校
 大岡学園ファッション文化専門学校

(7) 技能連携校の学科構成

名古屋情報専門学校 高等課程	普通科 商業科
あいちビジネス専門学校 高等課程	普通科
西尾高等家政専門学校 高等課程	普通科
名古屋調理師専門学校	普通科
専修学校東洋調理技術学院	普通科
豊橋ファッション・ビジネス専門学校	普通科
大岡学園ファッション文化専門学校	普通科

※名古屋情報専門学校は平成31年度より商業科より普通科へ変更。
 現在3年生のみ商業科。

(8) 生徒数及び教職員数（令和2年5月1日現在）

	単位制普通科		連携校普通科		連携校商業科		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1年生	32	24	337	118	0	0	511
2年生	56	39	340	113	0	0	548
3年生	79	49	105	77	237	25	572
計	167	112	782	308	237	25	1631

教職員数13名(兼務含む) 校長(兼務) 教頭 教員7名 兼任教員2名
 精神保健福祉士1名(兼任) 事務職員2名

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育目標

本校通信制課程単位制は、転学希望生徒や高校中退生徒の再チャレンジの場として、また不登校気味中高生の成長の場として、高校卒業資格の取得を第一目標に指導している。また、卒業後の進路指導についても力を入れている。

(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育指導方針

単位制の多くは、中学校時に不登校であった生徒、他の高等学校からの転入学生、学び直しを希望する編入学生である。個性豊かでいろいろな問題を抱えているが、その目標は「高等学校卒業」である。その希望に応えるため、家庭との連絡を密にして意欲と自覚を促し、単位取得と退学防止をはかる。また、わかりやすい学習指導、進路指導、悩み相談を行い、将来のために次のステージへつなげる。

Ⅲ 重点目標の達成及び改善方策

① 評価方法

各重点項目に対して、1点から3点で評価する。

良い …… 3点	普通 …… 2点	悪い …… 1点
どちらでもない …… 評価しない		

② 評価対象者

本校通信制専任教職員 8名

(1) 学習指導 平均 2.8 (昨年度2.8)

重点目標	教員評価	
	R2	R1
① 各科目の単位修得率を向上させる努力をする。	3.0	2.8
② 生徒の基礎学力向上に努める。	2.6	2.8
③ 試験による不正行為をなくす。	3.0	3.0
④ 欠課オーバーによる科目不認定者を減少させる。	2.6	2.6
⑤ 「よくわかる授業」の実践に心掛ける。	2.9	2.8
⑥ 授業中のマナー指導の徹底(携帯電話・スマートフォンの使用禁止、居眠り)	2.9	3.0
⑦ 授業の視聴覚教材を作成する。	2.8	2.7
⑧ 技能連携校スクーリングの新教材の作成と確認を行う。	2.4	2.7
⑨ 技能連携校におけるスクーリングを効果的に行う。	2.5	2.5
⑩ 総合学習(体験学習)を効果的に行っている。	2.9	3.0

(考察)

・評価としては昨年度とほぼ変わらない。以前と比べ授業の様子はかなり落ち着いており、私語やスマホ使用で注意される生徒はほとんどいない状況である。しかし、その一方で生徒の真の学力向上に結びつかないのが反省点である。我々教員の意識改革も求められている。

連携校のスクーリングについては年間3日間の実施であるが、マンネリ化を防ぐとともに受講生徒が少しでも満足するような授業・教材準備に心掛けている。映像授業が中心となっているが、時には「対面授業」の実施も検討している。知的好奇心を育むスクーリングでありたい。

【課題】

- ・どうしても在学生徒の学力には大きな格差が生じてしまう。(前籍校や中学時代)
- ・基礎学力が乏しい生徒が存在し授業についていけない場合ある。
- ・学習意欲に欠ける生徒が少なくない。(単位だけ取ればいい)
- ・技能連携校のスクーリングではどうしても映像授業中心となってしまう。
- ・教員側のマンネリ感(意識)が一部で感じられる。

【改善方策】

- ・学力差の是正をどのように行うかを各教科担当で工夫をする。
- ・特別講座(学び直し、進学)などを活用し少しでも「分かる」ことを体得させる。
- ・学習意欲に欠ける生徒に対しては、単位とは別の機会(資格・検定)などを考案する。
- ・技能連携校スクーリングでは映像授業だけでなく対面授業を少しでも増やす。
- ・教員のマンネリ感を防ぐため教員相互の授業見学などを導入する。
(教える以上は常に授業研鑽に励むことは当然である。)

(2)生活指導

平均 2.4 (昨年度2.3)

重点目標	教員評価	
	R2	R1
① 登下校時のマナーはしっかりしている。	2.0	2.1
② 校内外の巡視を行い、喫煙防止を図る。	2.4	2.1
③ 車両等による通学者は許可を得てマナーを守り通学している。	2.1	2.4
④ 公共交通機関利用時のマナーとモラルの意識向上を図る。	2.1	2.1
⑤ 交通安全に対する意識を持つように指導している。	2.4	2.0
⑥ 生徒自身に、登校日を正確に把握させ、確実に登校させる。	2.8	2.8
⑦ 健康診断通知配付と共に、治療が必要な生徒に対して治療勧告を配付する。	3.0	2.9

(考察)

- ・校内
週2日の登校であることから生徒間のトラブルもなく、授業中のスマホ使用やよそ事などは見られなくなった。しかし一部の生徒のみならず常に全生徒の状況を確認しながら対応している。
- ・登下校
生徒の登下校の状況は可能な範囲で把握に努めているが、なかなか実態が明確に把握できないのが現状である。特に交通ルールの順守を基本に近隣店舗・住民に絶対に迷惑をかけないように指導している。
- ・その他
健康診断後の治療勧告報告書の提出は、ほぼ全生徒ができています。

【課題】

- ・道の駅、藤川駅などで本校生に関係するバイク・自転車の違反駐輪がある。
- ・駅周辺では喫煙所での喫煙行為がまだまだみられる。
- ・全日制の生徒や大学生とのトラブルも懸念される。
- ・公共交通機関利用者が多いが、マナー意識の欠ける生徒も一部で見られる。

【改善方策】

- ・登下校指導や巡視を強化し可能な範囲で取り締まりを実施する。
- ・全日制や大学との連絡を密にしてトラブル防止に努める。
- ・喫煙等の違反生徒には保護者来校をお願いして指導する。
また、再三の指導に従えない生徒は進路変更をお願いする。
- ・特別活動などで、マナー遵守やモラル向上の意識を持たせる。
- ・健康診断を通して基本的な生活習慣の確立と健康への意識を持たせる。

(3)進路指導

平均 2.5 (昨年度2.4)

重点目標	教員評価	
	R 2	R 1
① 進学率を高める努力をしている。	2.5	2.3
② 学校幹旋就職希望生徒の内定率の向上。	2.4	2.3
③ フリーター・ニート等による進路未決定者の減少を目指す。	2.4	2.4
④ 担任が自クラスの進路を把握する。	2.8	2.4
⑤ 愛産大等姉妹校への進学を推奨し、増加を目指す。	2.4	2.0
⑥ 生徒が、能力・適性に合った進路を見つけられる為の面接指導を行う。	2.8	2.8
⑦ 就職説明会、姉妹校説明会への出席を指導する。	2.6	2.9

(考察)

- ・近年は進学希望の生徒が増加し、例年様々な形態での受験がみられるようになった。
しかし「自分が本当に学びたいこと」を考えて進学する生徒ばかりではなく、いい加減な進学をする生徒も一部で見られる。
一方学校幹旋にいる就職希望者も増加傾向にあり求人数も微増しつつある。自分の適性をみつけるのは難しいことではあるが各担任との面談などで対応している。

【課題】

- ・そもそも真面目に進路を考えていない生徒が少なくない。
- ・目的意識がなく進学するとすぐに退学する場合があります相手校に迷惑をかけてしまう。
- ・同様に業務を理解しないまま就職するとすぐに退職してしまう場合もある。
- ・基本的に様々な理由での転入学性が多いことから進路指導は難しい面がある。
- ・本人と保護者との共通意識がない場合に学校としても苦慮している。
- ・安易な退学、退職はそれぞれとの信頼関係を悪くする大きな要因となっている。

【改善方策】

- ・早い段階から進路に対する意識を持たせる。(個人面談や保護者懇談会など)
- ・3年生は進路調査の結果を分析し、その生徒にあった進路を選択させる。
- ・オープンキャンパスや企業見学に積極的に参加させる。
- ・校外模試などを有効に活用する。
- ・進路情報を積極的に伝える機会を増やしたい。
- ・姉妹校への進学については、総合探究の時間や講座、それぞれが実施するイベントを有効活用して慎重に斡旋する。

(4) 生徒相談

平均 2.7 (昨年度2.7)

重点目標	教員評価	
	R2	R1
① 不登校生徒のカウンセリングを促す。	2.8	2.8
② 欠席過多の生徒や不登校気味の生徒への家庭連絡を適切に行う。(家庭との連絡を密にする)	2.9	2.7
③ カウンセリングを実施して、登校率を向上させる。	2.5	2.3
④ 全日制スクールカウンセラーとの連携をとり実施している。	2.8	2.8

(考察)

- ・近年不登校傾向にある生徒が午前・午後ともに増加傾向にあり、その対応に苦慮することが増えた。午後コースの中には学力はあるものの精神的な不安定により転入するケースが多く、少しでも社会との関わりを持たせながら週2日の登校スタイルで対応している。そんな中で専門家によるカウンセリングは効果があり、毎回のように希望者がいる。ただ、カウンセリング自体が目的化するのではなく、それをきっかけとして少しでも改善することを望んでいる。

【課題】

- ・事実上ホームルームがない状況なので生徒との関わりは授業だけになってしまう。
- ・カウンセリングの時間が週1日(午前)だけなので受診者が限られる。
- ・心配な生徒は保護者との連携が不可欠であるが、中には無関心な保護者もいる。
- ・午後コースは少人数制が基本であるが満席の授業が増えつつある。
- ・女子生徒の扱いは男性教員では限界がある。

【改善方策】

- ・生徒と触れ合う機会を少しでも増やしたい。(個人面談週間などの導入)
- ・カウンセリングを少なくとももう一日増やすか、終日対応にしたい。
- ・地域の保護施設との連携も時には必要になってくる。
- ・各教員が「声かけ」の大切さを意識して生徒に対応する。
- ・女子生徒対応に関しては、どうしても女子教員の常駐が不可欠である。

(5) 生徒募集

平均 2.8 (昨年度2.8)

重点目標	教員評価	
	R2	R1
① 年間目標入学者数を確保する努力をしている。	2.9	3.0
② 入学相談者に対する入学率を向上させる。	2.9	2.9
③ 学校説明会を計画的・効果的に実施する。	2.9	3.0
④ 学校説明会参加人数が昨年を上回るよう努力する。	2.8	2.6
⑤ 退学者数を少なくする努力をしている。	2.9	2.7
⑥ 在籍数の多い高校を訪問して、現況報告する。	2.9	2.7
⑦ 業者による合同説明会に参加して、入学者数増に努める。	2.8	2.8

(考察)

- ・定員120名のところここ数年それを超える入学生を迎えている。数字自体は問題ないが、どうしても安易な気持ちで転入学するケースが多い。特に一部の高校では何かあるとすぐに本校への転学を勧める傾向にあり迷惑している。募集方法にも見直しが必要である。
- ・中学校からの入学が増加傾向にあり、徐々に認識されつつある。特に不登校傾向にある生徒にとって本校の午後コースは選択肢の一つになりつつある。中には能力の高い生徒も散見するため、より良い進路選択のサポートをしたい。

【課題】

- ・広域性の通信制高校の宣伝力が大きく、そちらに流れるケースが少なくない。
- ・全体の秩序を乱す心配のある生徒の転入学が常に懸念される。
- ・前籍校との信頼関係が一部で構築できていない場合があり安易な転学がある。
- ・全日制高校からの事務手続きにいい加減なものがある。
- ・生徒数増加に伴う対応が遅れている。(教員数、施設、その他)

【改善方策】

- ・高校訪問をより丁寧に実施し本校のより良い理解を求める。同時に事務手続きに関しても可能な範囲で説明する。
- ・広域制の宣伝力を凌駕するのは厳しいが、本校の特性を地道にアピールすることで理解を得るように努める。
- ・中学校への訪問機会を少しでも増やしたい。
- ・積極的に進路指導にも対応し少しでも満足して卒業してもらうように努力する。
- ・教育施設、環境の整備(校舎、教室、教員数、講座数)にも努める。
- ・入学生徒の前籍校に生徒の状況を詳しく説明し、今後も転入学生徒推薦をお願いする。
- ・入学した生徒が何を望んでいるかをリサーチして改善する。
- ・本校の教育内容、教育方針などをPRし、広域制通信制高校との違いを理解して頂く。
- ・入学生増加に対応する教室、講座数、教員数、学則定員の検討をする。

(6)総務

平均 2.7 (昨年度2.5)

重点目標	教員評価	
	R2	R1
① ホームページの更新は時宜を得て行う。	2.6	2.1
② ホームページの資料請求・学校説明会の申し込みを増加させる。	2.6	2.3
③ 学校の情報を「メール発信システム」で適切に提供する。	2.6	2.6
④ 学校説明会の案内を効果的に配付する。	3.0	2.9

(考察)

- ・学校の情報発信の術としてホームページの存在は当たり前となっており、常に最新の情報を発信することが肝要である。生徒募集では資料請求や説明会参加申し込み、在籍生徒に対しては貴重な伝達方法となっている。より効率的な活用が求められている。

【課題】

- ・ホームページの更新がなかなかできていない。
- ・「メール登録」が思うようになされない。(特に保護者の協力が得られない)
- ・一部の教員に情報発信の意識が欠ける。

【改善方策】

- ・ホームページ更新を頻繁に行い、常に最新の情報をアップする。
- ・ホームページからの質問や問い合わせには迅速かつ誠実に対応する。
- ・在校生のメール登録については、可能な範囲で義務付けたい。

(7)校務

平均 2.5 (昨年度2.4)

重点目標	教員評価	
	R2	R1
① 校外における美化活動を行っている。	2.6	2.6
② 環境整備に気を配り、ゴミを減少させる。	2.6	2.6
③ 省エネを推進し、エネルギー委員会の目標値「前年度比で1%」となるように努力し、意識の高揚を図る。	2.1	2.6
④ 日直を中心とした校内整備を行う。	2.6	2.1
⑤ 各階担当者・教室管理者による教室整備と校内美化に努める。	2.6	2.3

(考察)

- ・立地条件が年々成長する樹木に囲まれており、可能な範囲で整備をやっている。特に近隣住民との良好な関係を築くためには、年間を通しての整備が必要となっている。長期的な視野に立つての環境整備(施設の修繕や校舎増築など)も検討したい。省エネに対する意識に個人差がある。

【課題】

- ・技能連携校の増加に伴いスクーリング授業は増えるが、機材の整備が遅れている。
- ・校舎外壁の老朽化が著しい。(特に屋上の老朽化は思わぬ災害に繋がる懸念がある)
- ・生徒、教員ともに使用机が老朽化している。
- ・規範意識に欠ける生徒が一部存在し、登下校時のポイ捨てがある。
- ・一部の教員に省エネに対する意識がみられない。

【改善方策】

- ・長期的な視野に立ち、校舎修繕・机椅子の新規購入を進める。
- ・周辺住民の意見等を参考にした周辺整備に取り組む。
- ・生徒の登下校を観察し予防措置をとる。
- ・各教員に一層の省エネ意識を持たせ、修理可能なものは自ら修理する。
- ・教室管理教員に教室環境の整備について実践させる。

(8)事務関係

平均 2.5 (昨年度2.5)

重 点 目 標	教員評価	
	R 2	R 1
① 業務の効率化を図り、残業ゼロを目指す。	2.1	2.4
② 職員室の基幹データと共有し、データの一元管理を目指す。	2.5	2.4
③ 電話等の対応を適切に行う。	2.8	2.5
④ 入学相談等、入学に関わる事務を適切に行う。	2.8	2.6
⑤ 就学支援金事務作業を円滑に行う。	2.4	2.4

(考察)

・連携校も含めると在籍数約1600名の生徒の管理をしているので、事務関係のデジタル化が急務である。しかし、専門知識を持つ教員による開発が時間の関係でなかなか進んでいないのが現状である。また、事務職員が2名(1名は派遣)であることも状況を厳しくしている。教務データや指導要録等の書類は手書き(手入力)であり、在籍証明、成績証明等の書類発行の効率が非常に悪い。早急に改善する必要がある。

【課題】

- ・専門知識を持つ職員が少なく業務が遅れてしまう。
- ・特に多忙な時期(年度末)になると勤務時間がオーバーしがちである。
- ・事務職員が1人(派遣1名)であることで業務が集中してしまう。
- ・要録や証明書が手入力であることでミスが発生しやすい。

【改善方策】

- ・事務職員の増員(専任2名+派遣1名)が急務である。
- ・事務処理を技能連携校分と本校単位制分を分けて担当する。

- ・多忙な時期は可能な範囲で教員が手伝いながら対応する。
- ・現在進行中のデジタル化を早急に完成させる。

IV 本年度の具体的な取り組み

- ・単位制校舎によるカウンセリング実施(スクールカウンセリング常駐)
- ・体験学習講座新設(自衛隊体験・トリミング体験)
- ・連携校スクーリング単位制校舎実施
- ・連携校スクーリングの対面授業の実施
- ・校外学校説明会の実施回数増加
- ・連携校スクーリング単位制校舎実施のため教室設備充実(暗幕カーテン設置)

V 来年度の具体的な取り組み予定

- ・連携校スクーリング単位制校舎実施(1校増えて8校となる)
- ・体験学習講座新設(教養脳トレーニング)
- ・進学のための奨学金制度説明会の実施
- ・校舎外美化活動(樹木の伐採等)
- ・視聴覚機器の充実(プロジェクター等)
- ・新パンフレット、新学校紹介動画作成
- ・掲示板の増設、ホームページの活用

VI 重点目標の達成に対する考察

全体的な目標については徐々に達成されつつあるが、細かな部分ではまだまだ未達成の部分もある。特に全業務にわたるデジタル化については全日制と比べても大幅に遅れており、アナログ的な部分が残っている。技能連携校が増えることと単位制生徒自体の在籍数も増加傾向にあることから、多くの生徒の様々な情報を扱う関係でより正確さが求められる。

早急な対応が急務と考える。

6年前から導入された教育内容(午後コース)については、徐々に地域に浸透されつつあり、午後コースを希望する生徒は増えている。今後も保護者・生徒・そして学校のニーズに即した教育内容を実践し、三河地区におけるの通信制高校の一つとして不動の地位を築きたい。

VII 生徒アンケート結果の総合考察

本年度は146名の生徒からアンケートを実施した。項目ごとの考察については集計結果参照。通信制高校であるゆえ、ほとんどの生徒が様々な問題を抱え転入学してくる。そのため「高校卒業」だけを目標にしてそれ以上の目標を持つ生徒は少ないのが現状である。

しかし、近年は進路指導に重点を置いてきたこともあり、より多くを求める生徒が徐々に増えてきた。その傾向がアンケートに評価の低さとして表れている。

今後は教員側にも単に卒業させるだけでなく、卒業後の進路も視野に入れた対応が求められる。

Ⅷ 保護者アンケート結果の総合考察

本年度は97名の保護者からアンケートを実施した。項目ごとの考察については集計結果参照。全体的にはほぼ例年通りの結果であるが、従来は関心のない保護者が多かったようであるが、近年は本校自体に関心をもって子供を転入学させる保護者も増えてきた感がある。保護者の関心はやはり「生徒が無事に登校し単位を修得できるのか。」というものと、新たに「希望の進路に進めるのか？」という傾向に分かれる。その対応としては、担任との面談や専門カウンセラーの助言、そして学び直し講座、進学講座などの有効活用などで対応したい。少しでも保護者に寄り添った通信制高校でありたい。

Ⅸ 今後の方向性

本校通信制課程単位制

現在多くの通信制高校が存在しその内容は様々である。多くは必ずしも通学を義務付けない(年数回のスクーリングのみ)学校が多く、広告にも多額の費用を費やして「楽しさ」をアピールしながらの募集活動を行っている。そんな中で本校は通学と対面授業を原則として一時的な減少期もあったものの近年では在学数も徐々に増加しつつある。特に午後コース開設後は中学校の不登校生徒の進路選択の一つになってきており、中には成績面で優秀な生徒も含んでいる。そのような生徒については単に卒業だけではなく、体調を良くした上で上級学校への進学もできる体制を構築したい。また、子育て・親の介護を終えて生涯学習の一環として入学(相談)するケースや、日曜日授業を求めるケースなども出ている。

これらを念頭にまだまだ本校には多くの可能性があるものと考え、そのためにもデジタル化の推進と教職員の増員が急務である。そして将来的には老朽化と手狭となった校舎の増改築も検討したい。

長期的な目標

- ・就職に直結する講座の新設(主に資格取得)
 - 〈例〉英会話・留学講座 電気工事士資格取得講座 情報処理資格取得講座
 - 危険物取扱資格取得講座 公務員試験合格講座 メイク・ネイル講座など
- ・新コースの設置
 - 〈例〉進学コース・・・大学受験をめざす生徒に対する別カリキュラムでの授業
 - 日曜コース・・・働きながら学びたい、生涯学習希望のコース
- ・進路指導室の新設
- ・校外社会研修
- ・部活動、サークルの開講

技能連携校(8校)

令和3年度より現状7校に1校が加わり8校となり在籍者数も増加する。いずれも技能連携を結び毎年3回のスクーリングを行い本校の卒業を認めている。従来は全日制の校舎をお借りして実施したが、すべて単位制校舎での実施となった。従来の映像授業から教員によるライブ授業を導入し好評を得ているため、少しずつ増やしていきたい。

「愛知県内に設置されている専修学校高等課程」の生徒に対する授業料軽減補助制度が始まった。現在は、「他県の通信制高等学校と技能連携している専修学校高等課程」の生徒も補助対象であるが、今後、補助制度を縮小される可能性があり、補助対象が「愛知県内の通信制高等学校と技能連携している専修学校高等課程」に限定されることを危惧し、本校に技能連携を希望する専修学校高等課程が増えることが予想される。

以上

令和2年度生徒アンケート

評価欄

A:よくあてはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

適当であると思われるところに○をつけてください。

評価観点		A	B	C	D	E
教育方針 学校経営	1	教育方針に沿った指導をしている。				
	2	落ち着いた学校生活を送っている。				
	3	生徒の可能性を伸ばすそうとしている。				
	4	施設・設備に満足している。				
家庭との連絡	5	連絡文書等は確実に届けている。				
	6	情報は絆ネット、電話等で発信している。				
教職員	7	教員に対して親しみやすさを感じている。				
	8	教員は悩みや相談事に優しく対応してくれる。				
	9	事務職員は親切に対応している。				
学習指導	10	理解しやすい授業に努めている。				
	11	熱心な授業をしている。				
	12	落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている。				
	13	総合的な学習(体験学習)の内容は充実している。				
生徒指導	14	わからないところを丁寧に教えてくれている。				
	15	社会のルールを守るように指導をしている。				
進路指導	16	いじめやトラブルがないように指導がしている。				
	17	役に立つ資料や情報が常備されている。				
健康管理 安全指導	18	進路についての相談や説明を丁寧にしている。				
	19	身体健康維持に対する指導をしている。				
	20	臨床心理士(全日制)がいるので安心感が持てる。				
その他	21	交通事故等の安全指導をしている。				
	22	地震や台風など時の適切な指示をしている。				
	23	校舎内の環境整備や美化に努めている。				

アンケートのご協力ありがとうございました。

令和2年度 生徒アンケート 集計結果

評価欄

A:よくあてはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

評価観点		A	B	C	D	E	
教育方針	1	教育方針に沿った指導をしている。	46%	38%	6%	0%	10%
	2	落ち着いた学校生活を送っている。	70%	20%	3%	0%	7%
	3	生徒の可能性を伸ばすそうとしている。	51%	30%	8%	0%	11%
	4	施設・設備に満足している。	30%	45%	8%	10%	7%
学校経営	考察	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針についてはどの程度理解しているのか？疑問ではある。 ・前籍校で多くの問題を抱えて転入した生徒にとっては落ち着いた生活である。 ・特に少人数授業である午後コースはそれなりに満足度が高い。 ・単に卒業だけでなく、更なるステップアップができる学校としたい。 ・入学生徒数の増加に伴い、各講座の収容人数が一部限界に達している。教室増設など今後は施設の充実が必要である。 					
家庭との連絡	5	連絡文書等は確実に届けている。	75%	15%	3%	0%	7%
	6	情報は絆ネット、電話等で発信している。	65%	33%	0%	0%	2%
家庭との連絡	考察	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的に週に2日程度の登校であることで、学校からの連絡は電話が基本である。 ・学校からの着信があった場合は必ず掛けなおすように指導している。 ・メール登録の徹底が不十分である。(登録割合 約75%) 					
教職員	7	教員に対して親しみやすさを感じている。	34%	34%	6%	2%	24%
	8	悩みや相談事に優しく対応してくれる。	35%	42%	7%	2%	14%
	9	事務職員は親切に対応している。	65%	20%	5%	2%	8%
教職員	考察	<ul style="list-style-type: none"> ・転入学してくる生徒の多くは教師に対して不信感を持つ場合があり、こちらの対応にも素直に反応できない生徒が少なくない。 ・その一方で教師に対して必要以上に依頼心を持つ生徒もみられる。 ・スクールカウンセラーの存在は生徒に対して一定の安心感を与えている。しかし、週1日(金曜日午前中)ではその対応にも限界がある。 ・どのような生徒であっても「声かけ」が大切であることを痛感する。 ・事務職員の対応については昨年度と同様の結果であったが、少ない人員で技能連携校の事務も扱うことは大変である。 					

評価観点		A	B	C	D	E	
学習指導	10	理解しやすい授業に努めている。	59%	35%	2%	0%	4%
	11	熱心な授業をしている。	51%	34%	5%	0%	10%
	12	落ち着いた雰囲気授業を受けている。	62%	24%	0%	0%	14%
	13	総合的な探究の内容は充実している。	72%	23%	0%	0%	5%
	14	わからない所を丁寧に教えてくれている。	37%	27%	10%	4%	22%
	考察 ・進学校からの転入生と中学校からの入学生が混在している状況なので、授業内容は中間的な内容を基本とし、「わかりやすい」・「興味をもちやすい」に重点を置いている。(特に視聴覚教材を有効活用して少しでも理解に役立てたい。) ・以前と比べ学習意欲を持つ生徒が増加している。 ・個人的な対応(個人指導)が教師側の業務の関係で満足にできていない。						
生徒指導	15	社会のルールを守るよう指導をしている。	30%	43%	6%	0%	21%
	16	トラブルがないように指導をしている。	43%	23%	10%	0%	24%
	考察 ・登下校時の諸問題については、常に後手後手になってしまうことが少なくない。 ・前籍校でのトラブルが原因で転学してきた生徒は注意を要する必要がある。						
進路指導	17	役に立つ資料や情報が常備されている。	28%	43%	13%	7%	9%
	18	進路の相談や説明を丁寧にしている。	70%	23%	5%	0%	2%
	考察 ・進路関係の資料は玄関ホールに展示・掲示してあるが手狭な感はある。 ・進路指導を強化してから、徐々にではあるが生徒からの評価は良くなった。						
健康管理安全指導	19	身体健康維持に対する指導をしている。	24%	22%	14%	13%	27%
	20	臨床心理士がいるので安心感が持てる。	68%	19%	0%	0%	13%
	21	交通事故等の安全指導をしている。	28%	31%	22%	4%	15%
	考察 ・学校の制度上健康に関する全体指導ができないので今後は検討していきたい。 ・スクールカウンセラーに気軽に相談できるようになった。						
その他	22	地震や台風時の適切な指示をしている。	33%	20%	10%	3%	34%
	23	校舎内の環境整備や美化に努めている。	58%	20%	8%	0%	14%
	考察 ・防災訓練を教員により実施している。(生徒が全員登校することはないため) ・校舎内外の美化活動は近隣住民の方々に迷惑をかけないように実施している。						

令和2年度保護者アンケート

評価欄

A:よくあてはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない

D:まったくあてはまらない E:わからない

適当であると思われるところに○をつけてください。

評価観点			A	B	C	D	E
教育方針	1	学校の教育目標や教育方針に理解できる。					
	2	学校は特色ある教育活動を行っている。					
	3	学校は生徒の一人一人の個性を尊重している。					
家庭との連携	4	単位取得を含めたコースの特徴を充分説明している。					
	5	連絡文書等は確実に届けている。					
	6	情報は絆ネット、電話等で発信している。					
学習指導	7	教員に対して親しみやすさを感じている。					
	8	教員は悩みや相談事に優しく対応してくれる。					
	9	事務職員は親切に対応している。					
	10	教員は理解しやすい授業に努めている。					
生活指導	11	社会のルールを守るように指導が適切に行われている。					
	12	いじめやトラブルがないように指導がしている。					
進路指導	13	生徒個々に対して、適切な進路指導を行っている。					
	14	進学・就職説明会など適切に行われている。					
その他	15	総合的な学習(体験学習)の内容は充実している。					
	16	校舎内の環境整備や美化に努めている。					
	17	役に立つ資料や情報が常備されている。					
	18	施設・設備等の環境整備は充実している。					
	19	健康診断などの身体健康維持に対する指導をしている。					
	20	臨床心理士(全日制)がいるので安心感が持てる。					

アンケートのご協力ありがとうございました。

令和2年度 保護者アンケート 集計結果

評価欄

A:よくあてはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

評価観点		A	B	C	D	E	
教育方針	1	学校の教育目標や教育方針に理解できる。	54%	31%	6%	0%	9%
	2	学校は特色ある教育活動を行っている。	52%	34%	5%	0%	9%
	3	学校は生徒の個々の個性を尊重している。	56%	33%	4%	0%	7%
教育方針	考察 ・あまり学校に関心のない保護者が多く、その分期待もしない場合がみられる。 ・他の広域制の通信制高校のような「楽しさ」を前面に出しての学校ではない。 ・少しでも生徒が「再スタート」できる学校でありたい。						
家庭との連絡	4	単位取得を含めたコースの特徴を充分説明している。	63%	31%	4%	0%	2%
	5	連絡文書等は確実に届けている。	61%	33%	5%	0%	1%
	6	情報は絆ネット、電話等で発信している。	70%	22%	5%	0%	3%
家庭との連絡	考察 ・「単位制」の制度が理解し難い場合があり、常に分かりやすい説明を心がけたい。 ・一部の家庭には子供の管理能力のないケースがあり学校として苦慮している。 ・保護者、生徒に絆ネットの登録をお願いしているが万全ではない。						
学習指導	7	教員に対して親しみやすさを感じている。	60%	31%	0%	0%	9%
	8	悩みや相談事に優しく対応してくれる。	58%	33%	2%	0%	7%
	9	事務職員は親切に対応している。	57%	33%	2%	0%	8%
	10	教員は理解しやすい授業に努めている。	51%	31%	4%	0%	14%
学習指導	考察 ・生徒の背後には保護者の存在があることを念頭に対応しているが、まずまずの結果が出ていると思う。さらに親切的な対応を心掛け信頼度を上げたい。 ・学級個別懇談会を年1回実施しているが、場合によっては増やすことも考えたい。 ・保護者により学校への過剰要求がある一方で、非協力的な保護者もいる。 ・事務職員の対応の評価が昨年より高くなっている。保護者からの苦情もほぼない。技能連携校の保護者からの対応もあるので多忙である。 ・生徒の学力差は如何ともしがたいが、単位習得を最優先に対応しながら、生徒個々の状況を把握し取り組みたい。 ・一昨年度から始まったマナビメント（進学講座・学び直し講座）の受講者が徐々に増えつつある。少しでも生徒・保護者のニーズに応えたい。						

評価観点		A	B	C	D	E
生活指導	11 社会のルールを守るように指導が適切に行われている。	36%	40%	4%	1%	19%
	12 トラブルがないように指導がしている。	45%	35%	4%	0%	16%
<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は問題ないものの、やはり一部の生徒の規範マナーが欠けており、登下校時のマナーに問題がある（喫煙・バイク）。下校指導などで対応しているが、限界もあることから、場合によっては警察対応でお願いしたい。 ・学校システム上生徒同士が干渉しないので、「いじめ」に類することはほとんどないと思われる。しかし、生徒の行動はしっかり把握する必要がある。 ・ネットについてのトラブルには厳重に注意を払う必要がある。 						
進路指導	13 生徒個々に対して、適切な進路指導を行っている。	55%	34%	4%	0%	7%
	14 進学・就職説明会など適切に行われている。	50%	34%	3%	0%	13%
<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路に関心のない生徒には頻繁に啓蒙している。（その多くは自主就業） ・その一方で進学する生徒が増加したので、進学講座の充実が急務となっている。 ・進路先に迷惑（退職・退学）をかけないような指導を徹底しなければならない。 						
その他	15 総合的な学習（体験学習）の内容は充実している。	48%	34%	2%	0%	16%
	16 校舎内の環境整備や美化に努めている。	63%	25%	3%	0%	9%
	17 役に立つ資料や情報が常備されている。	54%	25%	4%	0%	17%
	18 施設・設備等の環境整備は充実している。	30%	45%	4%	10%	11%
	19 健康診断などの身体健康維持に対する指導をしている。	51%	28%	6%	1%	14%
	20 臨床心理士（全日制）がいるので安心感が持てる。	55%	31%	4%	0%	10%
<p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の内容をさらに充実させ、生徒の進路活動の一環としてに役立てたい。そして本校の特色の一つにしたい。 ・本校の立地条件により近隣住民の方々に迷惑とならないよう周辺整備を行っている。 ・健康診断結果は必ず生徒に配布して健康管理の意識を持たせている。 ・スクールカウンセラーが常駐しカウンセリングを受け易い環境になった。希望者が毎回あり功を奏している。対保護者カウンセリングも同様に感謝されている。 						